



アクサ生命保険株式会社

## 《日本株インデックスTOPIXファンド》

運用実績 (2024年3月末日現在)		1年	3年	5年	設定来
	騰落率 (%) <sup>(注1)</sup>		38.11	46.37	83.90
(注) 運用開始日は2002年11月1日。					
運用方針	国内上場株式に投資することにより、東証株価指数に連動した投資成果をあげることを目標とします。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「インデックスファンドTSP」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「インデックスファンドTSP」への高位の投資比率を維持します。				

## 《グローバルグロースファンド》

運用実績 (2024年3月末日現在)		1年	3年	5年	設定来
	騰落率 (%) <sup>(注1)</sup>		47.68	48.94	126.48
(注) 運用開始日は2003年7月1日。					
運用方針	日本を含む世界主要先進国の株式の中から特に世界的に競争力に優れた成長企業の株式に投資し、外貨建ベースの優れた収益の獲得を目指す投資信託に主に投資することによって、中長期的な観点から、日本を含む世界主要先進国の株式市場全体 (MSCIワールド指数) の動きを上回る投資成果を目指します。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「Gグロース」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「Gグロース」への高位の投資比率を維持します。				

## 《グローバルソブリン債券ファンド》

運用実績 (2024年3月末日現在)		1年	3年	5年	設定来
	騰落率 (%) <sup>(注1)</sup>		12.29	11.87	17.06
(注) 運用開始日は2003年7月1日。					
運用方針	世界先進国の信用度の高いソブリン債を中心に分散投資する投資信託に主に投資することによって、安定した収益の確保と長期的な成長を目指します。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興・世界ソブリン・ファンドVA (適格機関投資家転売制限付)」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興・世界ソブリン・ファンドVA (適格機関投資家転売制限付)」への高位の投資比率を維持します。				

## 《グローバルリートファンド》

運用実績 (2024年3月末日現在)		1年	3年	5年	設定来
	騰落率 (%) <sup>(注1)</sup>		20.22	28.79	40.68
(注) 運用開始日は2004年7月12日。					
運用方針	世界各国の上場不動産投信 (REIT = Real Estate Investment Trust) を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に高い投資成果をあげることを目標とします。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興グローバル REIT ファンド (6カ月決算型)」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興グローバル REIT ファンド (6カ月決算型)」への高位の投資比率を維持します。				

## 《マネーファンド》<sup>(注2)</sup>

運用実績 (2024年3月末日現在)		1年	3年	5年	設定来
	騰落率 (%) <sup>(注1)</sup>		△0.10	△0.53	△1.09
(注) 運用開始日は2004年11月1日。					
運用方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド (B) (適格機関投資家私募)」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド (B) (適格機関投資家私募)」への高位の投資比率を維持します。				

(注1) 騰落率は、当月末における、上記各期間のユニットプライスの変動率を表しています。

(注2) 「マネーファンド」は株価、債券価格、為替等の変動の影響を受ける可能性が低いことを想定した特別勘定です。

ただし、低金利環境下 (マイナス金利を含む) では、「マネーファンド」の積立金の増加が期待できないだけでなく、諸費用の控除等により積立金が減少することもありますのでご注意ください。

※特別勘定「グローバルカレンシーファンド」は、2017年6月30日をもって廃止しました。

## 新ユニット・リンク保険 (有期型) 「Life DO」 「Life DO 80」 2023年度 特別勘定決算のお知らせ

### 1. 運用環境 (2023年4月～2024年3月)

#### 【日本株式市場】

日本株式市場は上昇しました。年度末の東証株価指数 (TOPIX) は前年度末比 +38.19% の2,768.62ポイント (前年度末2,003.50ポイント) となりました。日本経済のデフレ脱却への期待、円安による輸出企業の収益の改善期待、東証より株価が低迷している企業への企業がバナンスの改善勧告がされたこと、また米国株式市場の上昇等を好感し、日本株式市場は日経平均株価が34年ぶりの最高値を更新するなど上昇しました。

#### 【外国株式市場】

米国株式市場は上昇しました。年度末の NY ダウ工業株30種は前年度末比 +19.63% の39,807.37ドル (前年度末33,274.15ドル) となりました。米国のインフレの鈍化が鮮明になってきたことから、FRB (連邦準備制度理事会) による利上げが打ち止めになる一方で、景気が底堅い動きを見せたこと等から、年度前半米国株式市場は上昇しました。その後、秋口にかけて雇用市場の強さから長期金利が上昇したこと等を受けて軟調に推移する局面もありましたが、12月の FOMC (連邦公開市場委員会) の経済物価見通しにおいて2024年に利下げの見通しを発表したことや、米国経済のソフトランディング (軟着陸)、生成 AI 市場拡大への期待等から、米国株式市場は最高値を更新して上昇しました。  
欧州株式市場は上昇し、独 DAX 指数は +18.32%、仏 CAC 指数は +12.06% となりました。年度前半は ECB (欧州中央銀行) による利上げが株式市場の重荷になっていましたが、米国株式市場の上昇等の影響を受けて上昇しました。秋口にかけては、欧州の景気減速に対する懸念や米国株式市場の下落等の影響を受けて、欧州株式市場は下落しました。その後、米国株式市場の上昇等を好感し欧州株式市場は上昇しました。

#### 【日本債券市場】

日本債券市場は、10年国債の金利が上昇 (価格は下落) し、年度末には0.727% (前年度末0.351%) となりました。日本経済がデフレ経済から脱却したことを受けて、YCC (イールドカーブ・コントロール) の柔軟化 (金利上限の拡大)、超金融緩和政策の修正を行ったこと等から、日本の長期金利は上昇しました。

#### 【外国債券市場】

米国債券市場は、10年国債の金利が上昇 (価格は下落) し、年度末には4.200% (前年度末3.468%) となりました。インフレの鈍化が鮮明となったことから、FRB (連邦準備制度理事会) は政策金利の引き上げの打ち止めをしたものの、景気が堅調な中、インフレを抑え込む為に、FRB は政策金利を「高く、長く維持する」との見方が市場で台頭し、秋口に長期金利は10年金利で5% 近くまで上昇しました。その後、FOMC (連邦公開市場委員会) において利下げの見通しが示されたこと等を受けて、長期金利は10年金利で4% を割り込む水準まで低下しました。2024年に入ると物価の下げ渋りが見られたこと等から、米国の長期金利は反発して年度末を迎えました。  
欧州債券市場は、独10年国債の金利がやや上昇 (価格は下落) し、年度末には2.298% (前年度末2.292%) となりました。年度前半は、インフレを鎮静化する為に ECB (欧州中央銀行) が政策金利を引き締めていたことや米国の長期金利の上昇の影響等を受けて、欧州の長期金利は上昇しましたが、2023年年末にかけて、欧州景気の減速や米国長期金利の低下等の影響を受けて欧州の長期金利は低下しました。2024年に入ると米国長期金利の上昇等の影響を受けて欧州の長期金利は反発し、年度を通じてはほぼ横這いの動きとなりました。

#### 【外国為替市場】

米ドル / 円相場は、米ドル高円安となり、年度末には151.41円 (前年度末133.53円) となりました。年末にかけて米国の長期金利の低下により一時的に円高となる局面はあったものの、日銀が超金融緩和の修正後も緩和姿勢を維持する方針を示したことから、日米金利差に大きな変化がないとの見方等により、米ドル高円安の展開となりました。  
ユーロ / 円相場は、ユーロ高円安となり、年度末には163.24円 (前年度末145.72円) となりました。日欧金利差に大きな変化がないとの見方等により、ユーロ高円安の展開となりました。

お問合せ窓口：カスタマーサービスセンター 0120-933-399

受付時間 月～金 9:00～18:00

土 9:00～17:00 (日・祝日、12/31～1/3を除く)

## 2. 特別勘定資産の内訳 (2023年度末)

(単位：百万円、%)

区 分	日本株投資力学 ファンド		日本株ジバング ファンド		日本株エボリュー ションファンド		日本株インデックス 225ファンド		日本株インデックス TOPIX ファンド	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
現預金・その他	34	4.3	48	4.6	55	4.4	171	4.6	39	4.7
株 式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公 社 債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外 国 株 式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外 国 公 社 債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
そ の 他 の 証 券	778	95.7	1,006	95.4	1,188	95.6	3,585	95.4	797	95.3
貸 付 金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	813	100.0	1,054	100.0	1,243	100.0	3,756	100.0	836	100.0

区 分	グローバル グロースファンド		グローバルプリン 債券ファンド		グローバルリート ファンド		マネーファンド	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
現預金・その他	37	3.8	11	4.5	24	4.5	33	14.3
株 式	-	-	-	-	-	-	-	-
公 社 債	-	-	-	-	-	-	-	-
外 国 株 式	-	-	-	-	-	-	-	-
外 国 公 社 債	-	-	-	-	-	-	-	-
そ の 他 の 証 券	959	96.2	232	95.5	520	95.5	200	85.7
貸 付 金	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	997	100.0	243	100.0	544	100.0	234	100.0

(注) 金額は百万円未満を切り捨て。構成比は小数点第2位を四捨五入。

## 3. 特別勘定の運用収支状況 (2023年度末)

(単位：百万円)

区 分	日本株投資力学 ファンド	日本株ジバング ファンド	日本株エボリュー ションファンド	日本株インデックス 225ファンド	日本株インデックス TOPIXファンド
	金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
利息配当金等収入	-	5	-	42	14
有価証券売却益	13	34	19	93	15
有価証券償還益	-	-	-	-	-
有価証券評価益	193	300	188	1,085	216
為 替 差 益	-	-	-	-	-
そ の 他 の 収 益	-	-	-	-	-
有価証券売却損	-	-	0	-	-
有価証券償還損	-	-	-	-	-
有価証券評価損	-	-	-	-	-
為 替 差 損	-	-	-	-	-
そ の 他 の 費 用	-	-	-	-	-
収 支 差 額	206	340	208	1,222	246

区 分	グローバル グロースファンド	グローバルプリン 債券ファンド	グローバルリート ファンド	マネーファンド
	金 額	金 額	金 額	金 額
利息配当金等収入	1	0	18	-
有価証券売却益	28	2	11	0
有価証券償還益	-	-	-	-
有価証券評価益	320	26	75	0
為 替 差 益	-	-	-	-
そ の 他 の 収 益	-	-	-	-
有価証券売却損	0	-	-	-
有価証券償還損	-	-	-	-
有価証券評価損	-	-	-	-
為 替 差 損	-	-	-	-
そ の 他 の 費 用	-	-	-	-
収 支 差 額	351	29	106	0

(注) 金額は百万円未満を切り捨て。

## 4. 保有契約高 (2023年度末 /9勘定合計)

(単位：件、百万円)

項 目	件 数	金 額
新ユニット・リンク保険(有期型)	1,521	12,140
合 計	1,521	12,140

(注) 金額は百万円未満を切り捨て。

## 5. 特別勘定の運用状況

### 《日本株投資力学ファンド》

運用実績 (2024年3月末日現在)	騰落率 (%) (注1)	1年	3年	5年	設定来
		31.01	38.21	97.06	211.67
(注) 運用開始日は2002年11月1日。					
運用方針	日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式をトップダウンで選択する投資信託に主に投資することによって、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることが目標とします。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興アクティブ・ダイナミクス(投資力学)」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興アクティブ・ダイナミクス(投資力学)」への高位の投資比率を維持します。				

### 《日本株ジバングファンド》

運用実績 (2024年3月末日現在)	騰落率 (%) (注1)	1年	3年	5年	設定来
		41.01	37.00	87.82	367.06
(注) 運用開始日は2002年11月1日。					
運用方針	日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式をボトムアップで選択する投資信託に主に投資することによって、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることが目標とします。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興ジャパンオープン(ジバング)」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興ジャパンオープン(ジバング)」への高位の投資比率を維持します。				

### 《日本株エボリューションファンド》

運用実績 (2024年3月末日現在)	騰落率 (%) (注1)	1年	3年	5年	設定来
		17.72	18.07	79.47	133.38
(注) 運用開始日は2002年11月1日。					
運用方針	全世界の経済動向および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる国内株式を主な投資対象 <sup>(※)</sup> とする投資信託に主に投資することによって、中長期的な投資成果を積極的にあげることが目標とします。 (※) 国内株式を主要投資対象としますが、有望な投資対象が国内にない場合は、30%を上限にして海外株式に投資することがあります。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興エボリューション」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興エボリューション」への高位の投資比率を維持します。				

### 《日本株インデックス225ファンド》

運用実績 (2024年3月末日現在)	騰落率 (%) (注1)	1年	3年	5年	設定来
		43.16	41.56	96.71	433.82
(注) 運用開始日は2002年11月1日。					
運用方針	国内上場株式に投資することにより、日経平均株価指数に連動した投資成果をあげることが目標とします。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「インデックスファンド225」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「インデックスファンド225」への高位の投資比率を維持します。				